

『ドレスアップレール工法』

D. R (Dress Up Rail) 工法

施工マニュアル

KYタイル株式会社



D.R 工法に必要な主な工具



レーザー墨出し器
(墨出し用)



チョークライン
(墨出し用)



スタッドセンサー
(下地の間柱の位置探知用)



スケールコンベックス



チップソー切断機
(アルミレールカット用)



ドリル
(RC 下地の穴あけ用)



電動ドライバー
(ビス留め用)



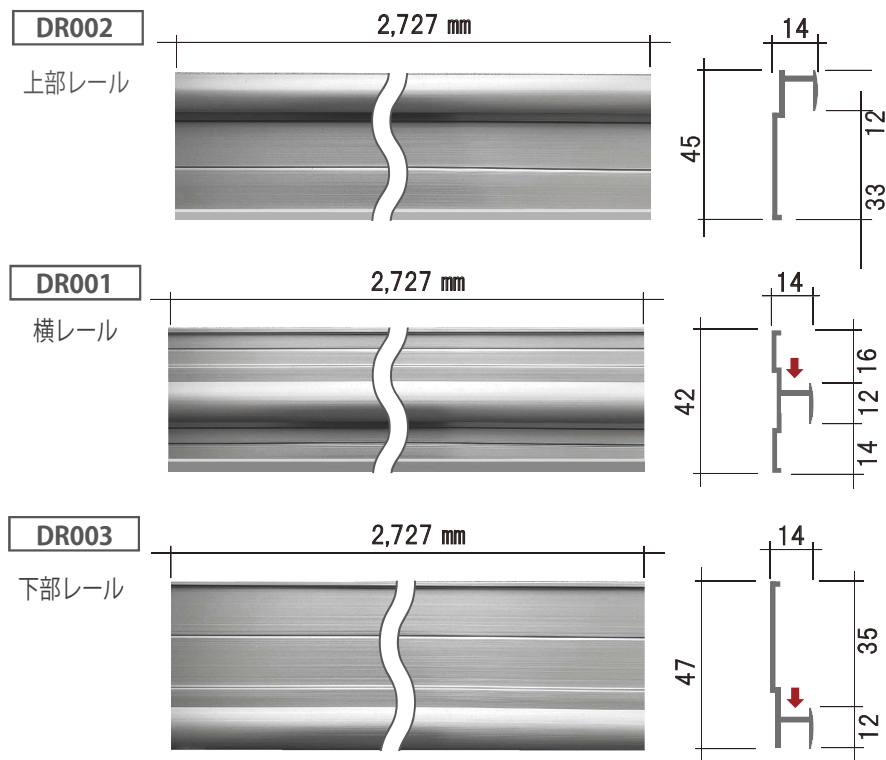
グラインダー
(タイルカット用)



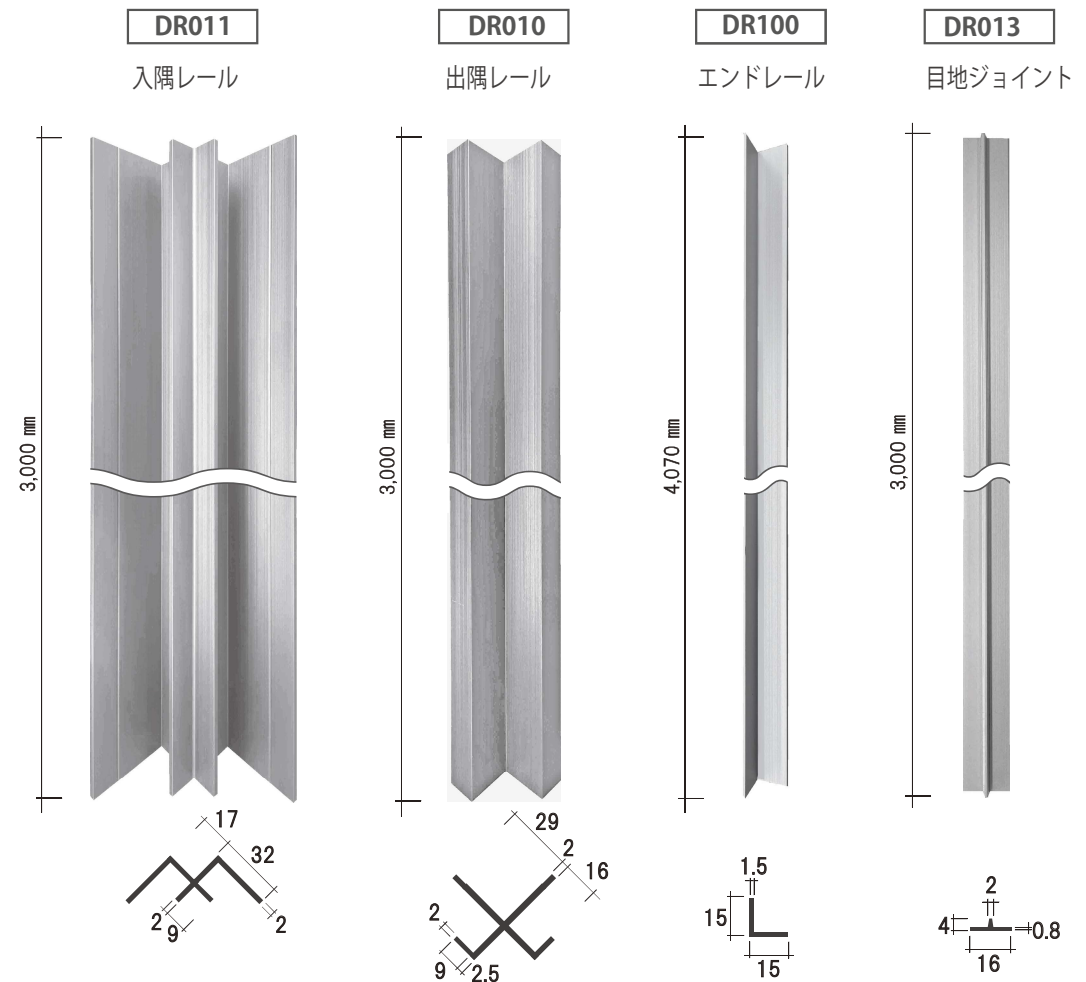
バキュームリフター
(大判タイル持上げ用)

その他、不陸確認用の直定規
などが必要となります。

レール部材の詳細



タイルを乗せる部分はレール溝の浅い方となります。レール取り付けの際は
上下の位置にご注意ください。



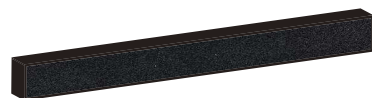
レール部副資材の詳細

DRNB-3 K

振動防止材（クロロプレンゴム）

粘着テープ付

（幅 10 mm、高さ 6 mm、長さ 100 mm）



DRNB-RN1

不陸調整スペーサー（P P樹脂）

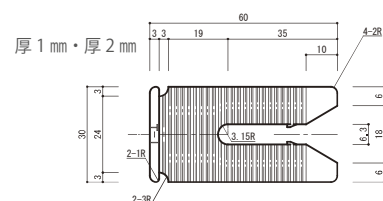
（幅 30 mm、長さ 60 mm、厚 1 mm）



DRNB-RN2

不陸調整スペーサー（P P樹脂）

（幅 30 mm、長さ 60 mm、厚 2 mm）



別売り品は一般の DIY 店でご購入ください。



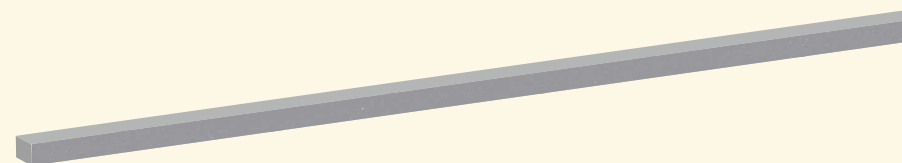
別売り：LGS 下地用ビス（ステンレス）

（径 4 mm、長さ 25 mm）



別売り：コンクリート下地用ビス（ステンレス）

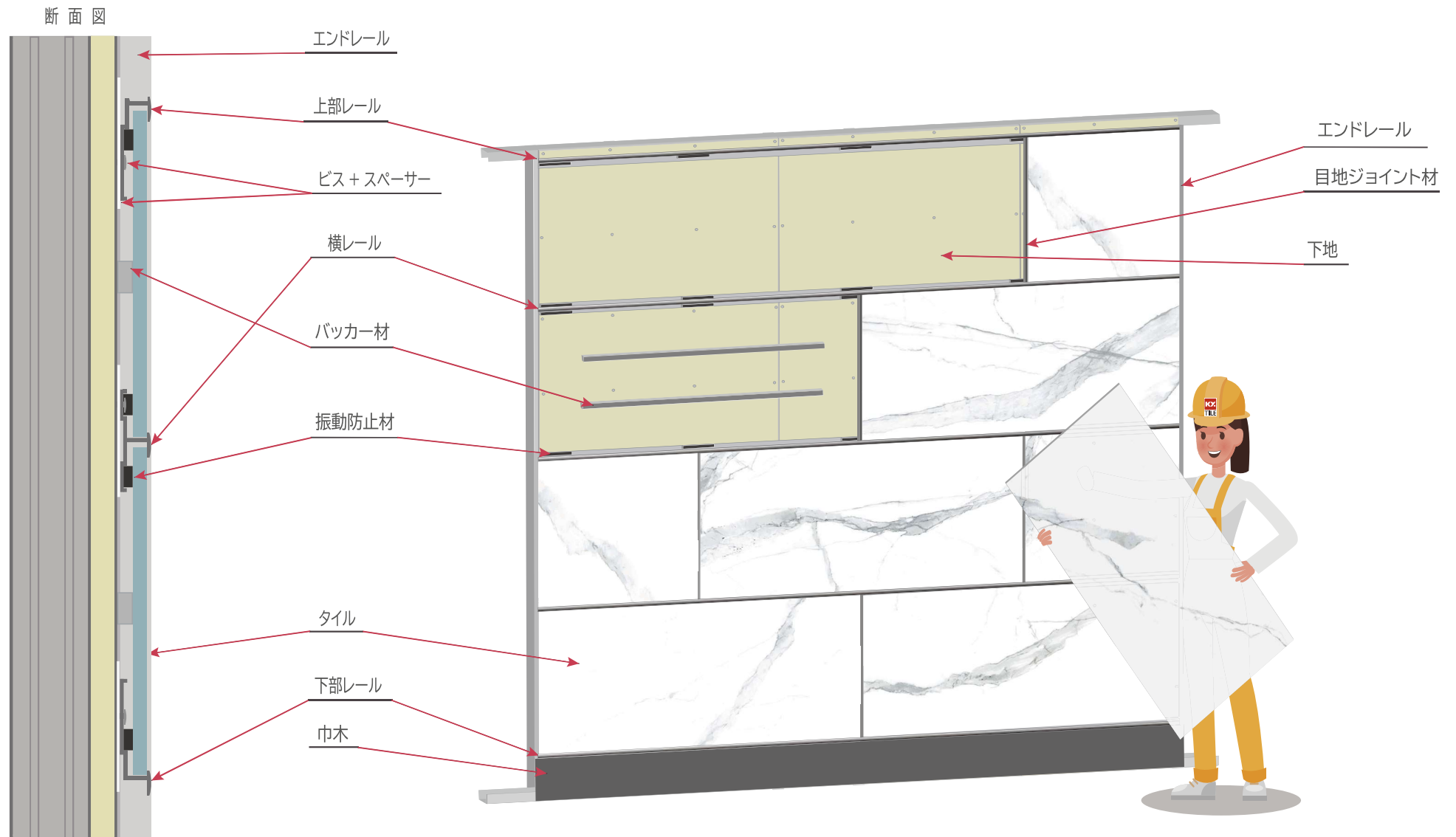
（径 4 mm、長さ 25 mm）



別売り：バッカー材（ポリエチレン）

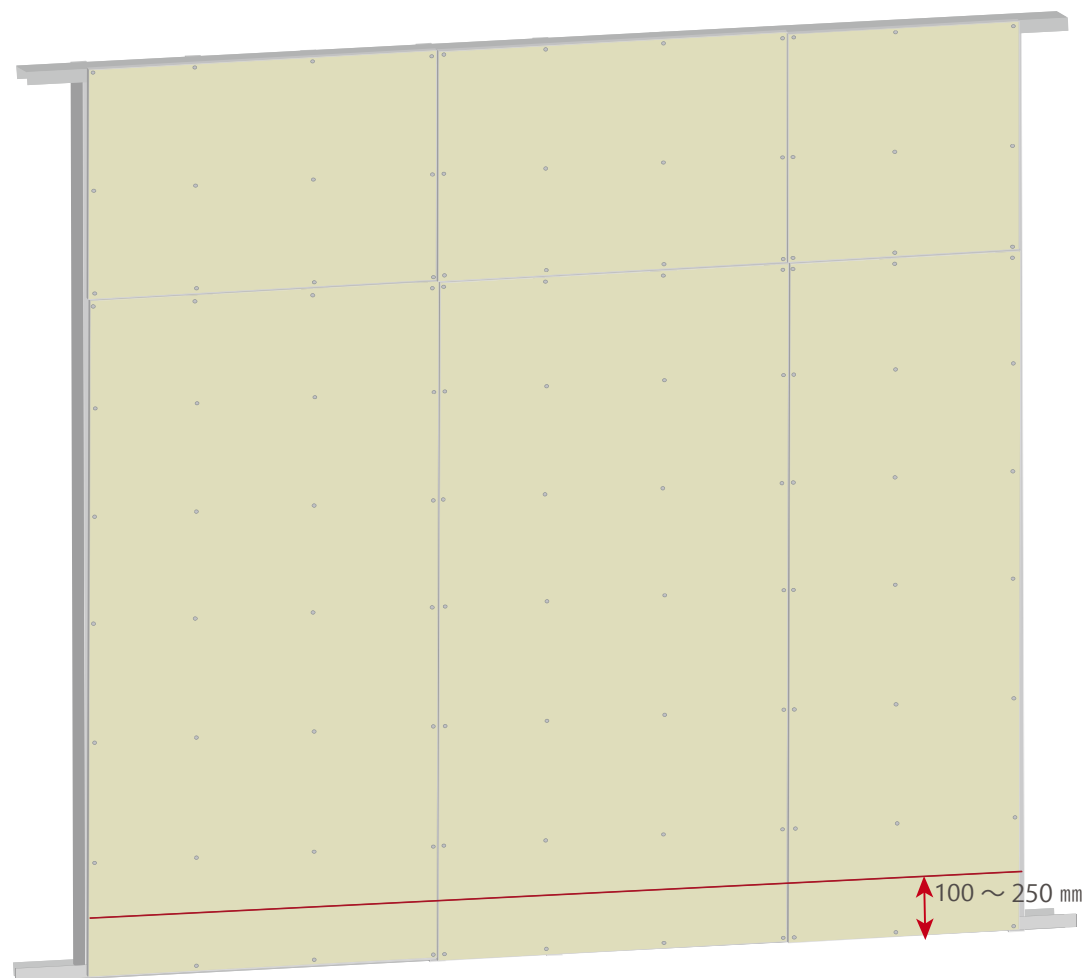
（幅 10 mm、高さ 7 ～ 8 mm、長さ 1000 mm）

『D. R 工法』 納まり詳細図



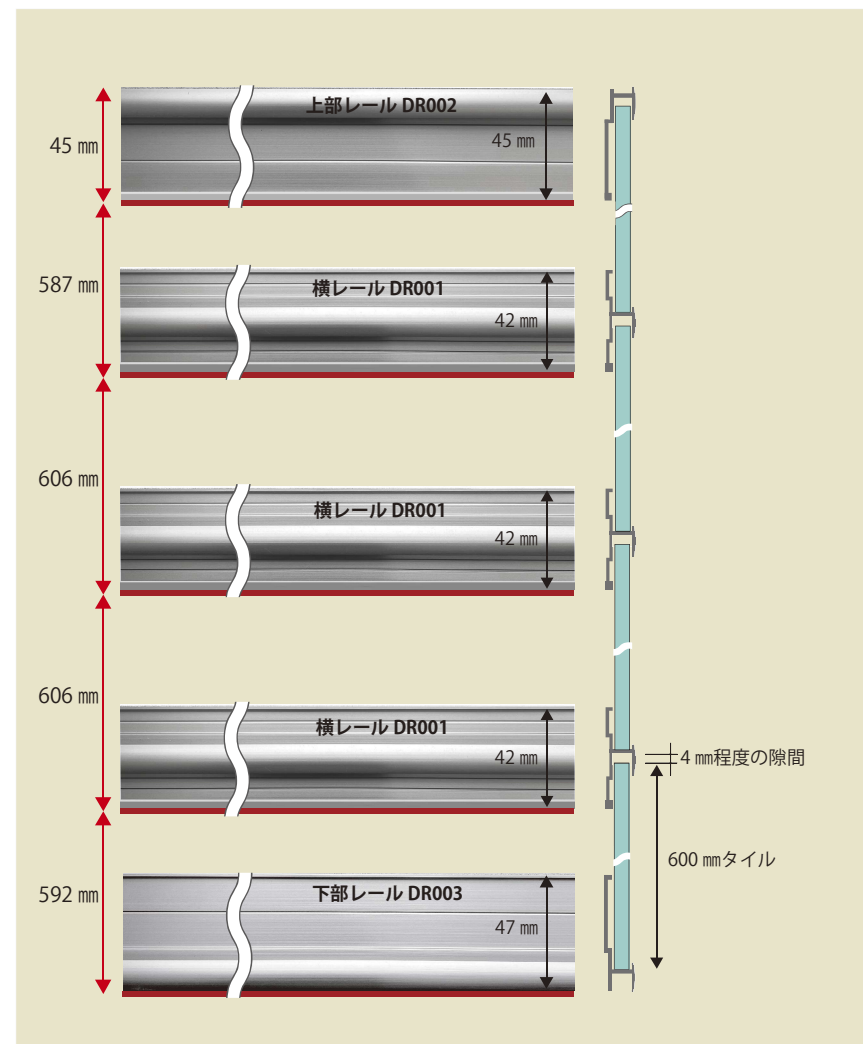
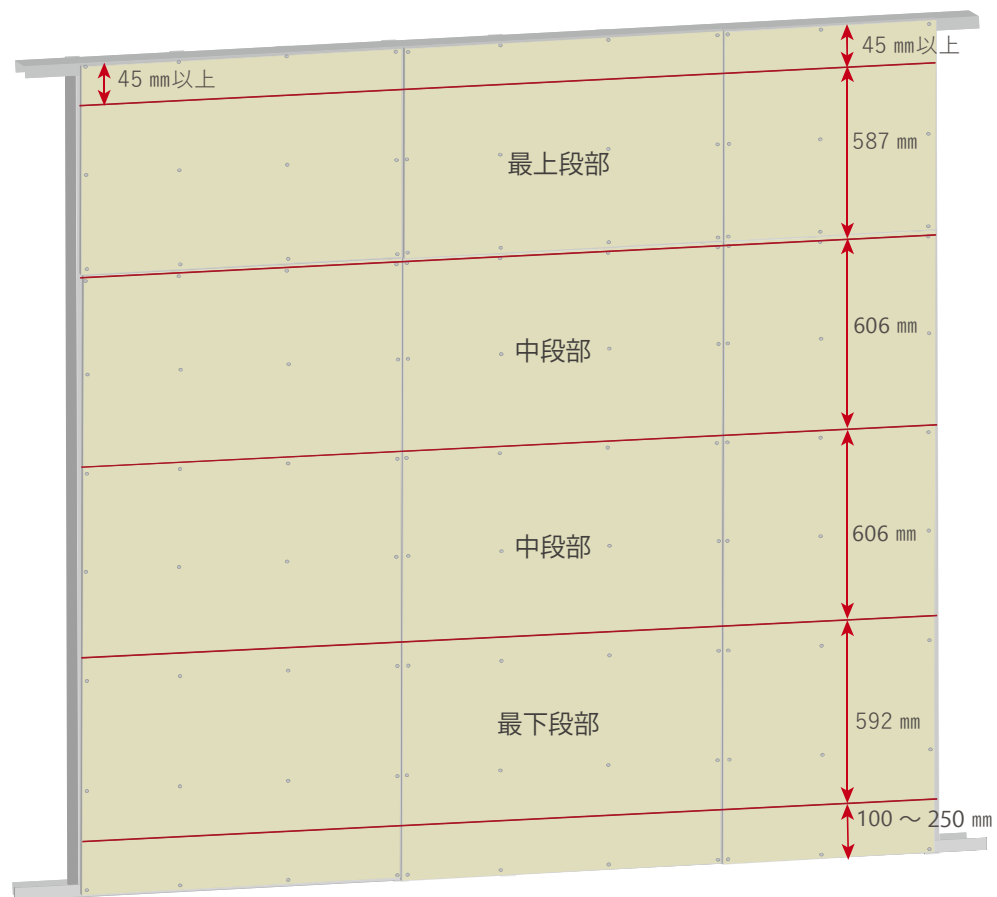
D.R 工法作業手順

墨出し 1



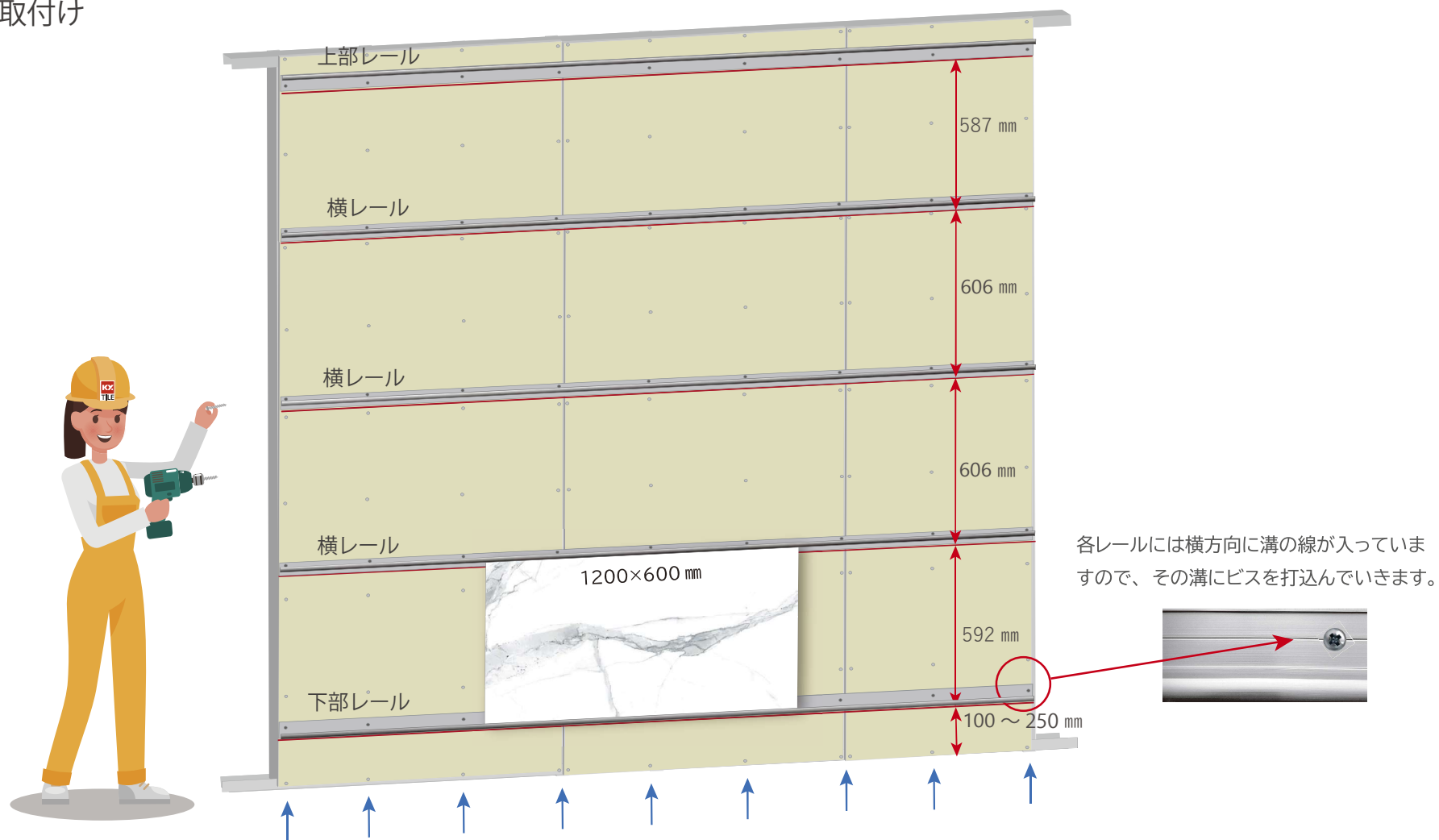
事前に割付をご決定ください。タイルの実寸は 1200×600 mm ですが、目地幅を考慮しますと横 1203× 縦 606 mm が基本となる割付となります。開口がある場合（P12 参照）はそこを基準に割付をすることをお勧めします。最下段は運搬台車の衝突での破損リスクを軽減するため、100 mm～250 mm（使用台車の高さに因る）程度空け、巾木で収めることをお勧めします。墨出しはレーザータイプのものを使い正確に水平位置を決めてください。

墨出し2



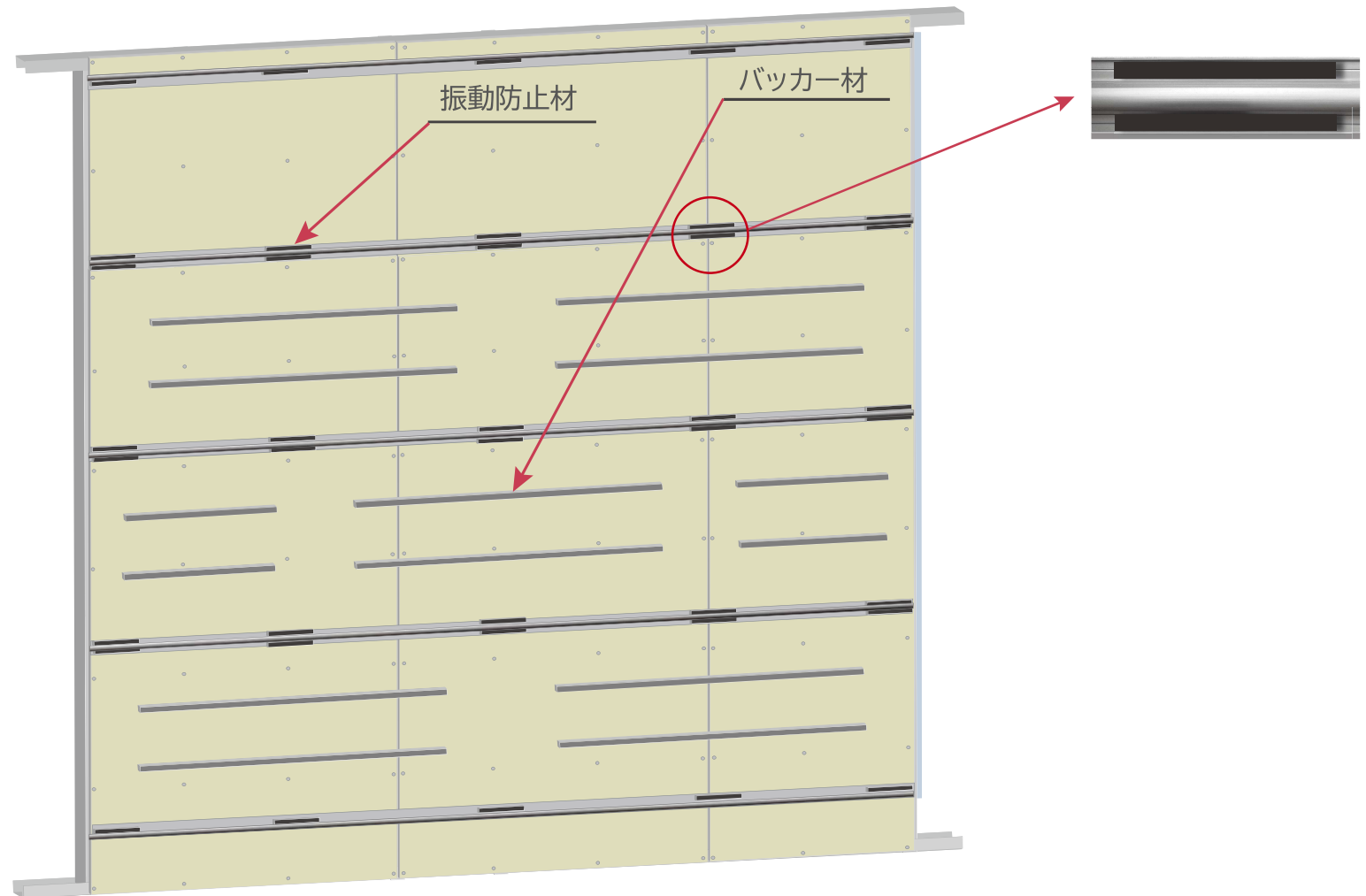
壁の高さが約 2,500 mm の場合はこのような墨出しとなります。レールの種類は、最下段部用の下部レール、中段部用の横レール、最上段部用上部レールの 3 種類あります。タイルを乗せるレールは溝の浅い方になりますので、レールの上下の向きには充分に注意をしてください。墨出しの赤い線と各レールの下端部に合わせてビス留めを行います。ビスはスタッド（胴縁）の位置に留めるようにしてください。出隅・入隅に施工される場合は P13 を参照ください。タイルはケンドン式（P10 参照）はめていきますので、タイルの上部はレールとの隙間が 4 mm 程度空ける様にします。

レール取付け



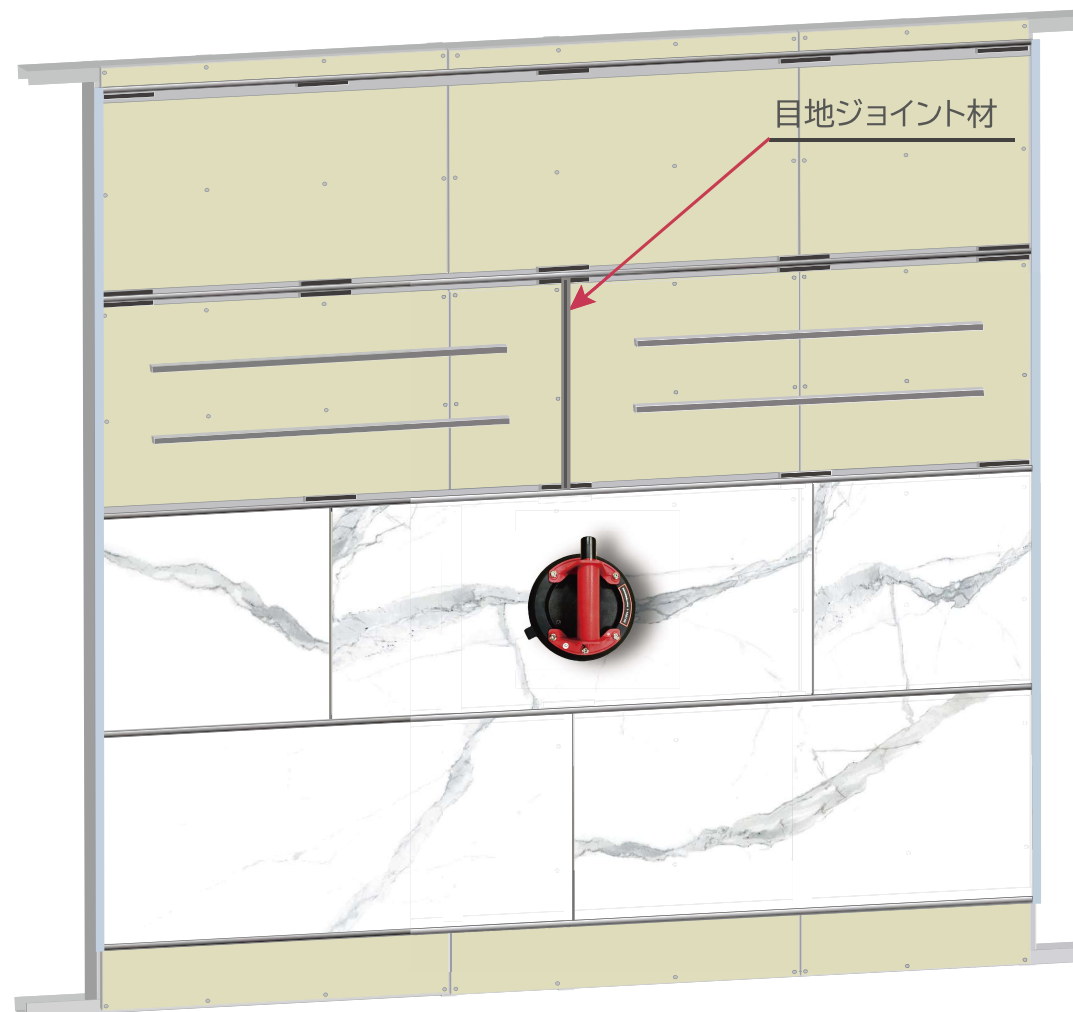
レールの固定作業は最下段の下部レールから開始します。必ずレールの上下の向きを確認しながら作業にあってください。ビスの留め位置は必ず縦のスタッド（胴縁）のある位置 ↑ で行います。下地不陸の高い位置から順に固定しますが、低い位置には 1 mm・2 mm厚スペーサー（別売り DRNB-RN1・2）を利用して不陸調整をしてください。2 段目以降の横レールを最下段と同様にビス留めしていきます。必ずタイルのはまり具合を確認しながら上下の微調整を行ってください。最上段の上部レールまで同様の作業を繰り返します。エンドレール（DR100 見切り材）をご使用の場合は P11 を参照ください。

振動防止材・バッカー材取付け



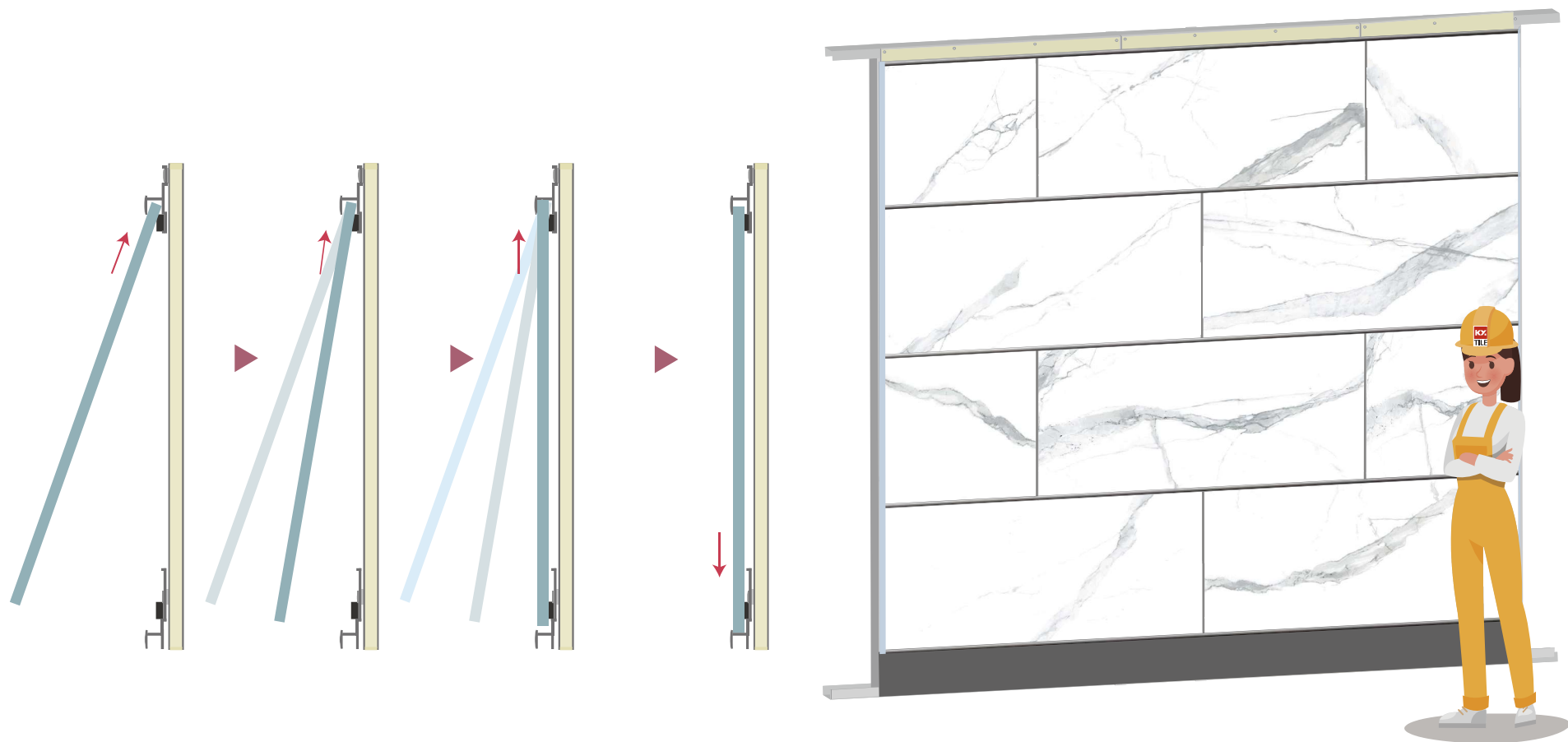
次に、スポンジ製の振動防止材（別売り DRNB-3K）を横向きレール全てのタイル上下接触部に 600 mmピッチで貼っていきます。（長さは 100 mmあるので隣り合わせのタイルは 1 本を共有できます）また、下から 3 段目程度（～ 1800 mm）の高さまではタイルの破損防止のための衝撃吸収材として 1000 mm長の粘着テープ付バッカー材をバランス良く（横に 2 本／タイル 1 枚につき）下地に貼り付けます。（レール設置完了）

タイル・目地ジョイント材取付け



いよいよ仕上げのタイル施工です。この作業も下段から実施してください。タイルはケンドン式（P10 参照）でレール上部に斜めに押し込みながら上方に持ち上げ、垂直になったらレール下部に押し下げ、レールにはめ込んでいきます。バキュームリフターを利用しますと作業が容易にできます。タイルとタイルの間の縦目地部分にはタイル施工時にアルミ製の目地ジョイント材（DR013）をはめ込んでいきます。（使用部位は振動防止材部分になります）タイルと目地ジョイント材を全数のはめ込んで完成となります。

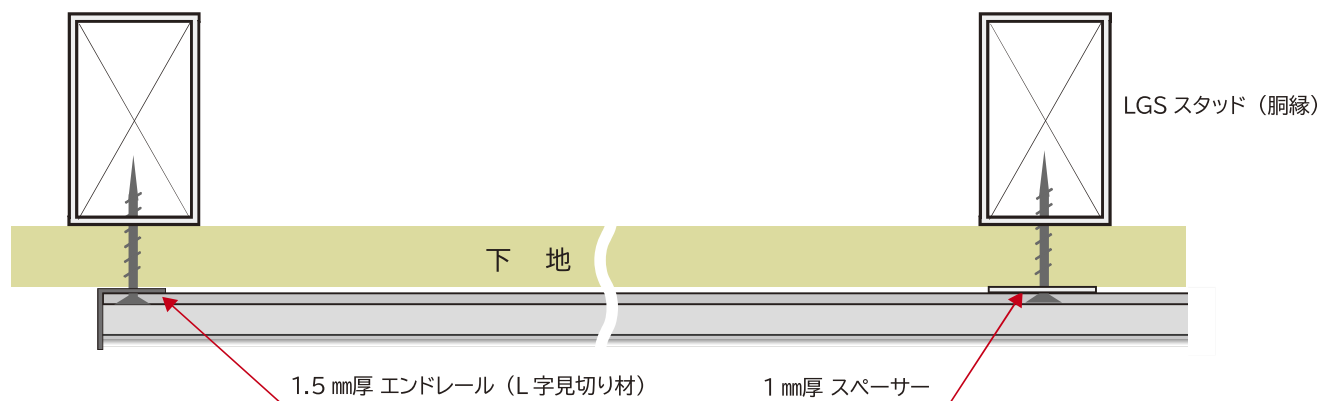
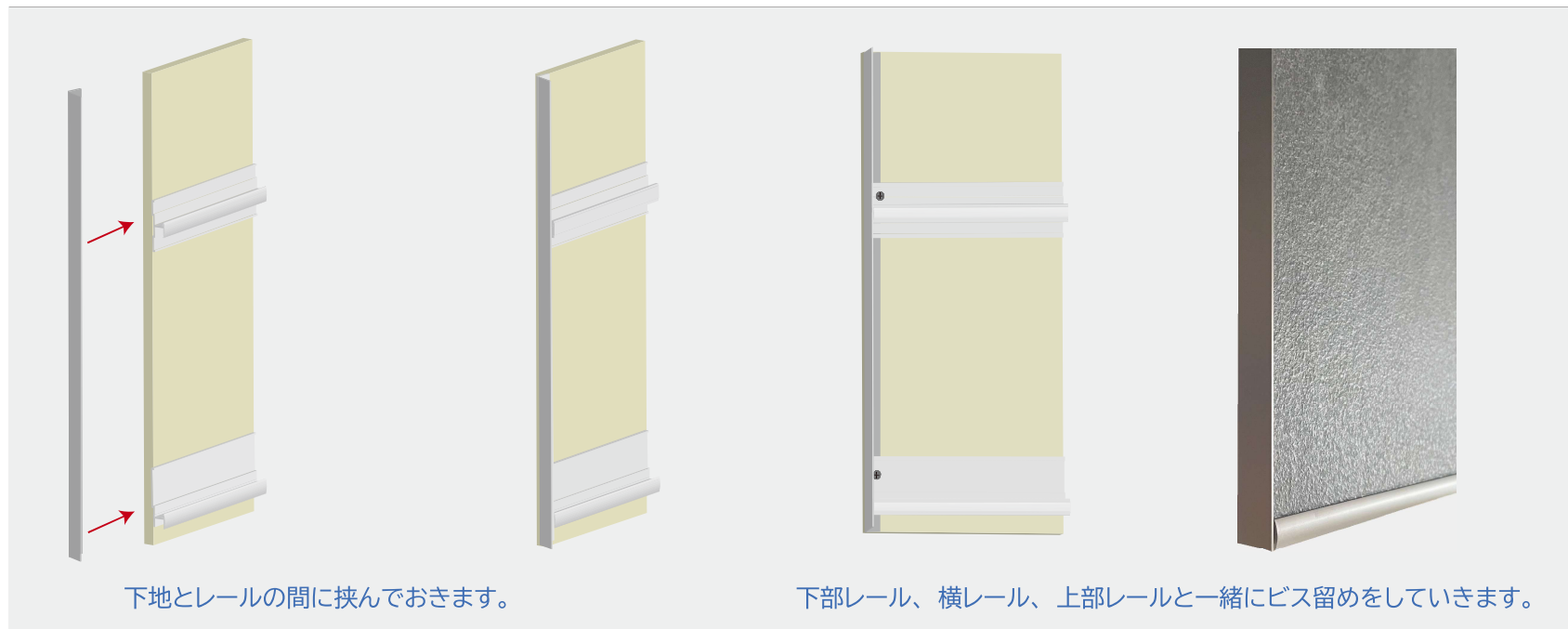
ケンドン式の手順



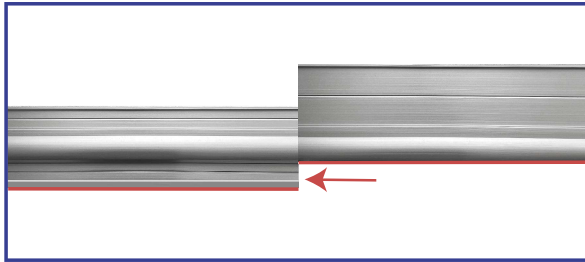
下部レールの下側は巾木などで仕上げてください。

エンドレール（見切り材）の納まり

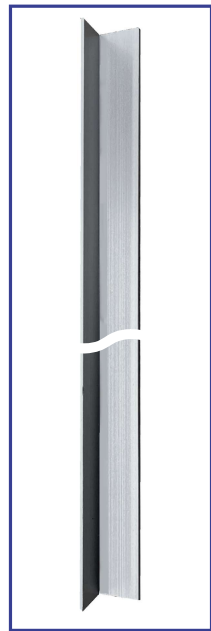
エンドレール（DR100）をご使用の場合は厚み分（1.5 mm）を浮かせるために他のビス留め部分全てに 1 mm厚のスペーサー（別売り）を挟み込みます。



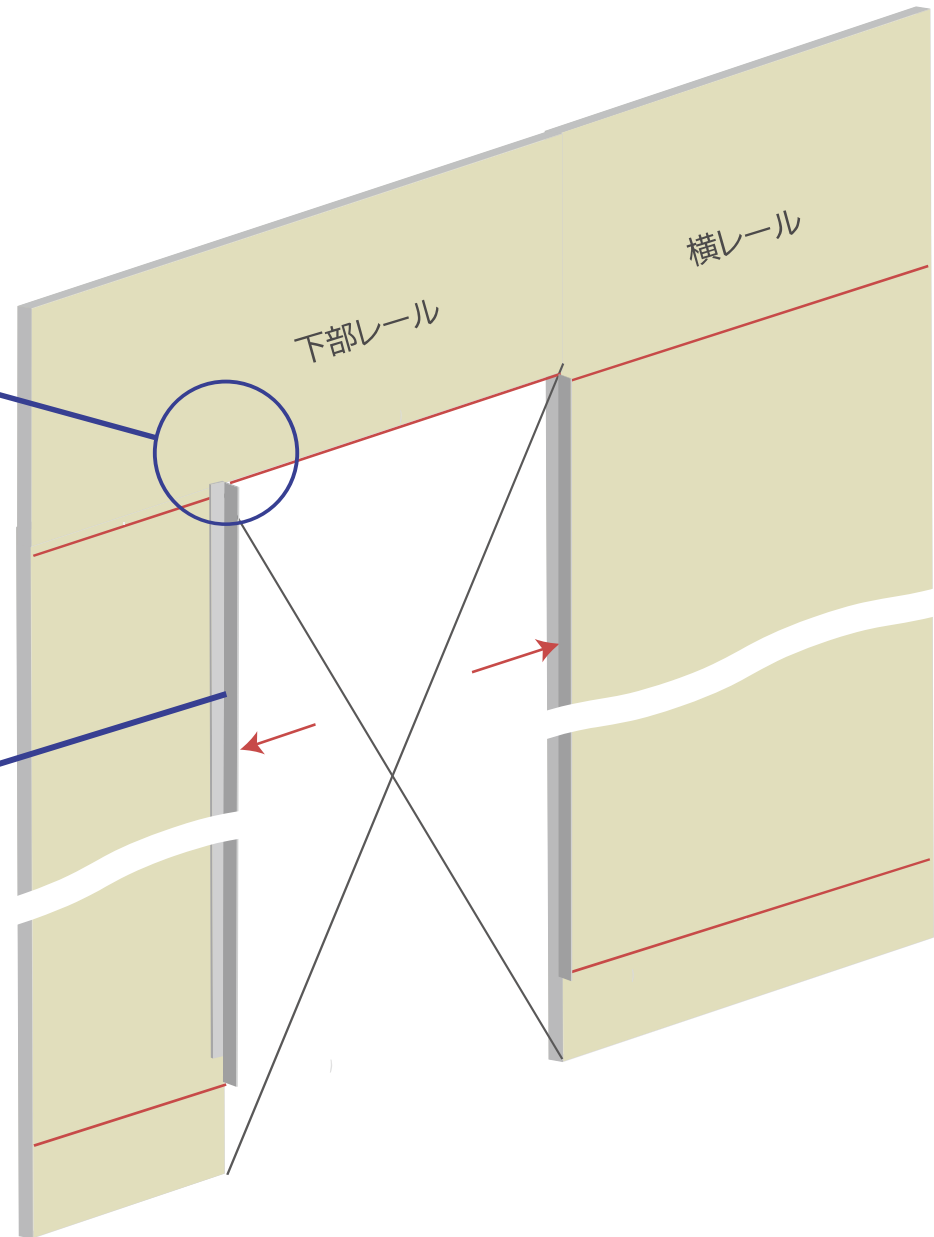
開口部の納まり



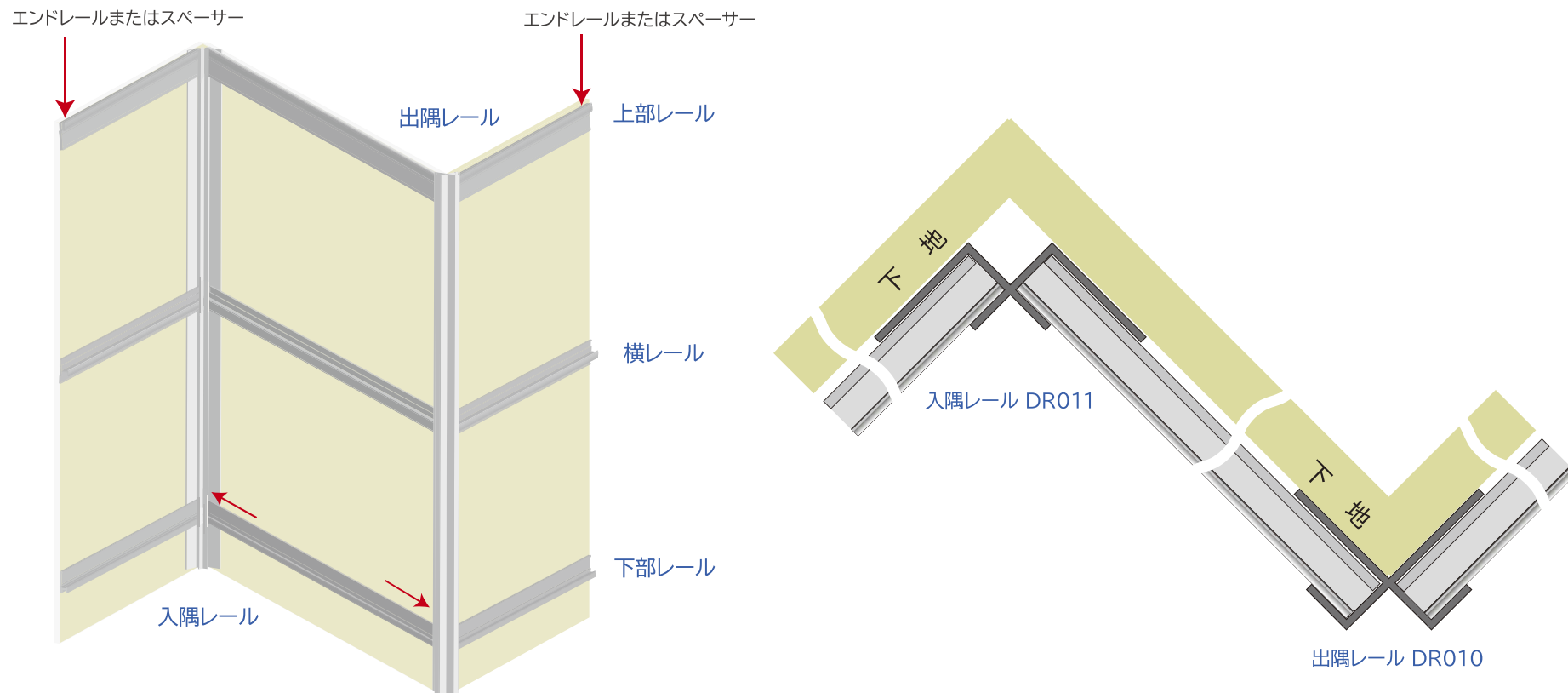
横レール下端は下部レール下端よりも 14 mm 下にズレが生じます。ご注意ください。



開口部の両側にエンドレール（DR100）をお使いください。



出隅・入隅部分の納まり



出隅・入隅がある場合は、まず先にそれぞれ縦使いの専用レール（出隅レール・入隅レール共に肉厚 2 mm）をテープなどで仮留めし、そこに横使いのレール（下部レール・横レール・上部レール）を差し込み、このレールも仮留めしてから横使いのレールの固定作業を開始してください。（後作業ではこの工程が困難なため）この場合も横使いのレールの固定を先行し、最後に縦使いのレールと横レールをビスで共留めし、レールの固定作業を完了させてください。また左右の両端に当たる部分は 1.5 mm 厚のエンドレール（見切り材）または 2 mm 厚のスパーサーを使い不陸を調整してください。

KYタイル株式会社

開発商品部

岐阜県多治見市笠原町 4000-10

TEL 0572-44-3018

FAX 0572-44-3019